

日本人旅行者の海外旅行志向

| | |
|-------|-----------------------------|
| 誌名 | 日本森林学会誌 |
| ISSN | 13498509 |
| 著者名 | 馬依拉阿夏木江 比屋根, 哲 山本, 清龍 |
| 発行元 | 日本森林学会 |
| 巻/号 | 98巻2号 |
| 掲載ページ | p. 74-78 |
| 発行年月 | 2016年4月 |

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



日本人旅行者の海外旅行志向 —中国新疆ウイグル自治区の観光振興にむけて—

馬依拉阿夏木江¹・比屋根 哲^{1,*}・山本清龍²

本研究の目的は、新疆ウイグル自治区の観光振興に寄与する基礎的な研究として、日本人旅行者の海外旅行に対する志向を明らかにすることである。調査は、自然を見どころとした白神山地と、歴史・文化を見どころとした平泉を訪れる日本人旅行者を対象に、海外旅行に対する志向を把握するためのアンケート調査により実施した。調査の結果、1) 日本人旅行者は海外旅行に対して、自然景観と歴史・文化との触れ合いの二つの志向を持っていること。2) アジア地域を志向する旅行者は、現地の人々との触れ合いや発見・刺激に対する志向が強いこと。3) 調査で提示した新疆の四つの観光地は、自然、歴史・文化、安らぎの場として、それぞれ位置づけられること、等がわかった。

キーワード：日本人旅行者、海外旅行、意識、観光

Mayila Axiamujiang,¹ Akira Hiyane,^{1,*} Kiyotatsu Yamamoto² (2016) Japanese Tourists' Consciousness of Foreign Travel: Towards Tourism Promotion of the Xinjiang Uyghur Autonomous Region, China. J Jpn For Soc 98: 74-78 The purpose of this research was to clarify the consciousness of Japanese tourists regarding the Xinjiang Uyghur Autonomous Region, China, for tourism promotion. We distributed a questionnaire to Japanese tourists who were visiting Shirakami-Sanchi and Hiraizumi, which are famous tourist resorts in the Tohoku district of Japan. Our investigation yielded the following findings: 1) Japanese tourists expect to enjoy both natural scenes, and to be appraised of local history and culture. 2) Japanese tourists intending to visit parts of Asia expect to enjoy contact with local people, and a sense of "discovery" and "stimulation" during their foreign travel. 3) When shown photographs of four tourist resorts in Xinjiang Uyghur Autonomous Region, they considered that in addition to nature, history and culture, there should be amenities for Japanese tourists.

Key words: Japanese tourists, foreign travel, consciousness, tourism

I. はじめに

現在、中国政府は経済発展が遅れている農山村や少数民族が暮らす辺境地域の観光開発による産業振興策を推進している(鈴木 2012)。中国の観光振興では、日本人を含む外国人旅行者の誘致も重要な課題となっている。

本研究の目的は、中国で観光振興が必要な地域として新疆ウイグル自治区(以下、新疆)を念頭に、実際に日本国内を旅行中の日本人を対象に、旅行者の海外旅行志向を明らかにすることである。新疆は森林、草原、砂漠に代表される自然とシルクロードに関わる歴史・文化の観光資源に恵まれている。新疆への日本人旅行者の減少傾向は、民族問題や外交問題が顕在化する2009年以前からみられ、新疆ウイグル自治区統計局の資料(2009)によれば、2004年度の約44,000人から、2008年度には約12,000人にまで減少している。

既往研究では、大学生を対象に海外旅行の阻害要因を検討した研究(中村ら 2009)、大学生の世界遺産観光のニーズを分析した研究(田中ら 2011)、日韓大学生の海外旅行意識に関する比較研究(安 2011)等が発表されているが、アジア地域へ外国人旅行者の誘致をはかる情報提供、魅力

の発信方法を検討した調査研究はほとんどみられない。馬依拉ら(2014)は、岩手大学の日本人学生を対象に海外旅行に対する価値観の把握を試み、日本人学生は海外旅行に自然物と人工物のバランスのとれた観光地を想起し、自然とともに人や建物等の人工物に触れる機会を求めていること。豊かな自然を売りにした海外の観光地には雄大な自然を感じリフレッシュしたいとの価値観があるのに対し、歴史・文化を売りにした観光地には知識を深め視野を広げ自分の成長につなげたいとの価値観があることを明らかにした。本研究では、以上の成果も踏まえ、日本人旅行者の海外旅行志向について検討した。

II. 研究の方法

1. 調査地および調査対象者

調査地の選定にあたっては海外旅行の志向の中に「自然志向」と「文化志向」があると想定し、地理的に近接する東北地方を代表する観光地として、世界自然遺産の「白神山地」(以後、白神)と世界文化遺産の「平泉」(以後、平泉)の2カ所を選定し、そこを訪れる日本人旅行者を対象とした。

*連絡先著者 (Corresponding author) E-mail: hiyane@iwate-u.ac.jp

¹ 岩手大学大学院連合農学研究所 〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-8 (The United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, 3-18-8 Ueda, Morioka, Iwate 020-8550, Japan)

² 岩手大学農学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-8 (Faculty of Agriculture, Iwate University, 3-18-8 Ueda, Morioka, Iwate 020-8550, Japan)

(2015年9月24日受付, 2016年1月16日受理)

2. 調査方法

白神山地では、旅行者が「暗門の滝」へ向かう散策路の出発点であるアクアグリーンビレッジANMONで、平泉では、中尊寺の参道入口付近と平泉文化遺産センター前で、日本人旅行者を対象に面接式アンケート調査を実施した。調査では調査地点を訪れる旅行者に協力を依頼し、同意を得た者に調査票の記入を依頼し、その場で回収した。時間に余裕がない協力者には調査票を返信用封筒に入れて手渡し、回答後郵送してもらった。

3. アンケート調査の概要

アンケート調査では、2カ所の観光地を訪れる旅行者の性別、年齢、交通手段の基本属性をはじめ、旅行目的や国内観光地の選定基準、国内観光地および海外観光地に求めるもの、海外旅行経験の有無、海外で行ってみたい地域等について回答選択肢を提示し回答を求めた。また、新疆観光に関わる質問項目として、新疆で著名な観光地の写真4枚(図-1)を提示し、それぞれに対して旅行者が見出す魅力や一番行きたいと思う観光地の写真の選択状況を把握した。

写真①は自然観光地「天池」で、ウルムチ市から東へ110km、標高1,980mにある湖である。2013年に登録された世界自然遺産「新疆天山」の指定地域を含み、森林と湖を中心とする原生的な自然景観を持つ。写真②は文化観光地「トルファン」で、シルクロードの通過点として歴史と文化を体感できる観光地である。周辺は砂漠の自然景観がみられるが、天池のような緑量の多い森林景観は皆無である。写真③は「アルタイ」地区にあるクム村の集落である。クム村はアルタイ地区の有名な観光地カナス湖にも近く、集落の背後には豊かな森林があり、静かで民俗風情に富む観光地である。写真④は、ウルムチ市を代表する観光地点、新疆国際バザールの「市場」である。見物、買い物、

飲食、娯楽を求めて多くの旅行者で賑わう場所である。なお、天池(写真①)とトルファン(写真②)は、既報研究(馬依拉ら2014)と同じ写真を用いた。また、近年の民族問題や外交問題の回答への影響を避けるため、回答者には写真の国名や観光地名は伏せて調査を実施した。

III. 調査結果

調査の結果、白神、平泉あわせて606人から回答を得た。回答者の基本属性をみると、性別では男性48%、女性52%ではほぼ同数のデータが得られた。相対的に面接式調査では20代までの若年層の回答者が、郵送回収式調査では60代以上の高年層の回答者が多かったが、全体としては幅広い年齢層から回答を得た(J-STAGE電子付録付表-1)。

1. 二つの世界遺産を訪れる旅行者の属性と志向

調査で得られたデータのうち、旅行者の基本属性等の選択式の質問項目についてクロス集計を行い、 χ^2 検定($p < 0.01$)を行った。その結果、白神山地では回答者の居住地は青森県、秋田県が多く、平泉では交通手段に鉄道を利用した者や1泊2日の旅行者が多い等、観光地の立地環境の特性に由来する差異がみられた(J-STAGE電子付録付表-2)。

しかし、国内観光地を選ぶ際「最も重要な決め手は何か」を尋ねたところ、白神山地64%、平泉66%とともに「見どころ」が圧倒的に多く、全体として有意な差は認められなかった(J-STAGE電子付録付図-1)。また、国内の観光地に何を求めて出かけるか(複数選択)を集計した結果、平泉で「歴史・文化」、白神山地では「発見・刺激」の割合が有意に高かったが(ともに $P < 0.01$)、両調査地とも1位は「自然景観」で7割を超えていた(J-STAGE電子付録付図-2)。



図-1. 日本人旅行者に提示した新疆ウイグル自治区観光地の写真

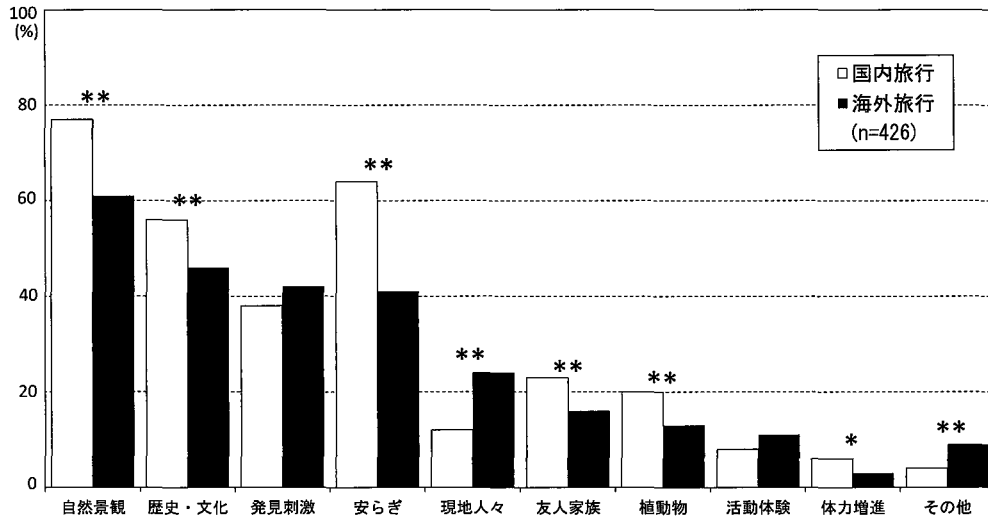


図-2. 国内旅行・海外旅行における観光地に対する期待の比較

*は χ^2 検定で有意差 ($P < 0.05$) がある項目, **は有意差 ($P < 0.01$) がある項目を示す。

表-1. アジア地域選択の有無による主な相異点

| | アジア選択あり ($n = 144$) | アジア選択なし ($n = 282$) |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| 自然景観 | 91 (63%) | 169 (60%) |
| 歴史文化 | 79 (55%) | 117 (41%) ** |
| 心の安らぎ・癒し | 64 (44%) | 109 (39%) |
| 発見や刺激・非日常体験 | 74 (51%) | 106 (38%) ** |
| 現地の人々との触れ合い | 47 (33%) | 56 (20%) ** |

数値の単位は人数, () 内は割合を示す。*は χ^2 検定で有意差 ($P < 0.05$) がある項目, **は有意差 ($P < 0.01$) がある項目を示す。

2. 海外旅行に対する志向

1) 国内旅行との比較からみた海外旅行に対する期待

海外旅行未経験者では海外旅行に関して強い期待阻害が生じている可能性があることから、全回答者606名の約70%にあたる海外旅行経験者426名のみを対象にして海外旅行に対する期待を分析した。図-2は、国内旅行と海外旅行に対する期待(複数回答)の選択率を、海外旅行で割合が高い選択肢の順に並べて比較したものである。結果は、海外旅行経験者は海外旅行に対して「自然景観」「歴史・文化」「心の安らぎ・癒やし」「発見や刺激・非日常体験」の順に期待が大きく、上位4項目は4割を越える高い選択率となった。また、割合は20%強と5位であるが「現地の人々との触れ合い」が国内旅行よりも海外旅行で有意に高い選択率 ($P < 0.01$) を示した。

2) 旅行者属性と海外旅行に対する期待の関係性

次に、海外旅行で上位を占めた「自然景観」から「現地の人々との触れ合い」までの上位5項目について、属性との関係性の有無を解析した(J-STAGE電子付録付表-3)。性別では5項目いずれでも有意差は認められなかった。一方、世代別では10~20代で「心の安らぎ・癒やし」「発見や刺激・非日常体験」「現地の人々との触れ合い」が他の世代と比べて高い割合を示し、また50代以上では「発見や刺激・非日常体験」が若い世代より割合が低い等の結果

が示された。

3) アジア志向と海外旅行に対する期待の関係性

新疆はアジアに位置していることから、海外旅行の経験者を、行きたい海外旅行先の一つにアジアを選択した旅行者(144名、以後、アジア志向旅行者)とアジアを選択しなかった旅行者(282名、以後、非アジア志向旅行者)に分け、先ほどと同様に「自然景観」から「現地の人々との触れ合い」までの海外旅行に対する期待上位5項目の選択率について、両者間の差異を検討した(表-1)。その結果、アジア志向旅行者は海外旅行に対する期待として、非アジア志向旅行者よりも「歴史・文化」「発見や刺激・非日常体験」「現地の人々との触れ合い」の選択率が高かった ($P < 0.01$)。

3. 写真選択率にみる観光地の誘因力とアジア志向

アジアへの海外旅行を志向する日本人旅行者は、アジアに位置する新疆を訪問する可能性も高いと考え、一番魅力を感じて行きたい場所として新疆の四つの観光地の写真選択率について、アジア志向旅行者と非アジア志向旅行者に分けて比較分析した(表-2)。その結果、まず、全体としては、最も選択率の高いのは自然景観を持つ天池(写真①)、2位は歴史文化を持つトルファン(写真②)、3位は人が行き交う市場(写真④)、最も選択率の低いのは里山的景観を有するアルタイ(写真③)となった。この順位にはアジア志向旅行者と非アジア志向旅行者で変化がないが、アジア選択者で天池の選択率が低く ($P < 0.05$)、反対にトルファンの選択率が高かった ($P < 0.05$)。

次に、それぞれの写真を選択した旅行者(海外旅行経験者)が持つ海外旅行に対する期待について「自然景観」から「現地の人々との触れ合い」までの5項目の回答率を分析した(図-3)。ここでは写真の非選択者、写真の選択者、写真選択者中のアジア志向旅行者の三つに区分して示した。クロス集計結果を χ^2 検定したところ、アジア志向旅

表-2. 一番魅力で行ってみたいと思う写真の選択結果

| | 写真1 | 写真2 | 写真3 | 写真4 |
|------------------|-----------|-----------|----------|----------|
| 全体 (n=420) | 191 (45%) | 100 (24%) | 45 (11%) | 84 (20%) |
| アジア以外 (n=280) | 139 (50%) | 58 (21%) | 34 (12%) | 49 (18%) |
| アジア (n=140) | 52 (37%) | 42 (30%) | 11 (8%) | 35 (25%) |
| | * | * | | |
| 女性 (n=79) | 26 (33%) | 26 (33%) | 3 (4%) | 24 (30%) |
| 男性 (n=61) | 26 (43%) | 16 (26%) | 8 (13%) | 11 (18%) |
| | | | * | |
| 10~20代 (n=41) | 13 (32%) | 12 (29%) | 4 (10%) | 12 (29%) |
| 10~20代以外 (n=99) | 39 (39%) | 30 (30%) | 7 (7%) | 23 (23%) |
| 30~50代 (n=89) | 32 (36%) | 28 (31%) | 7 (8%) | 22 (25%) |
| 30~50代以外 (n=51) | 20 (49%) | 14 (27%) | 4 (8%) | 13 (25%) |
| 60~70代 (n=10) | 7 (70%) | 2 (20%) | 0 (0%) | 1 (10%) |
| 60~70代以外 (n=130) | 45 (35%) | 40 (31%) | 11 (8%) | 34 (26%) |
| | * | | | |

数値の単位は人数, ()内は割合を示す。*は χ^2 検定で有意差 ($P < 0.05$) がある項目, **は有意差 ($P < 0.01$) がある項目を示す。

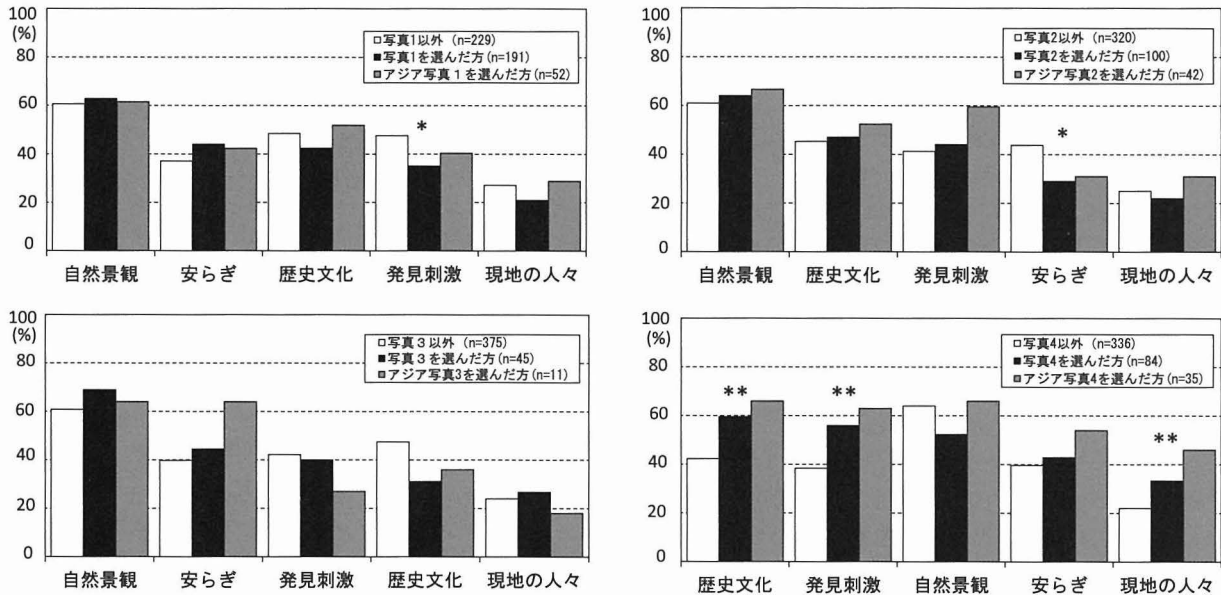


図-3. 海外旅行経験者の4枚写真と海外旅行に求めるものとの相異点

*は χ^2 検定で有意差 ($P < 0.05$) がある項目, **は有意差 ($P < 0.01$) がある項目を示す。

旅行者の回答率が高かった点に注目すると、トルファンでは「安らぎ」 ($P < 0.05$) が、市場では「歴史・文化」「発見や刺激・非日常体験」「現地の人々との触れ合い」に対する期待が高い傾向が認められた ($P < 0.01$)。

IV. 考 察

以上の研究結果を踏まえ、以下に新疆の観光振興を念頭に、1) 海外旅行者の誘致で考慮すべき旅行者の志向、2) アジア地域を志向する旅行者が期待する体験、3) 観光体験の多様性の観点からみた四つの観光地の位置づけ、の3点について考察する。

1. 海外旅行を誘致する際に考慮すべき旅行者の二つの志向

研究結果から、日本人旅行者は国内旅行と同様に海外旅行に対して自然景観と歴史・文化との触れ合いを求めている。この結果は、日本旅行業協会が2008年に日本人を対象に実施した海外旅行の満足度調査の結果（渡航先の自然観光資源70%、人文観光資源66%）と一致する。また、学生は海外旅行に自然物と人工物のバランスのとれた観光地を想起したとする馬依拉ら（2014）の研究結果とも整合した。以上のことから、新疆の観光地に日本人旅行者を誘致する際には、新疆の自然と歴史・文化どちらか一方の魅力情報を提供するよりも、両者をいかに組み合わせる旅行者の2つの志向に対応するかが重要と考えられる。

2. アジア地域を志向する旅行者が期待する体験

海外旅行では国内旅行よりも現地の人々との触れ合いが求められ、歴史・文化、発見や刺激・非日常体験を求める傾向は、アジア地域を志向する旅行者でより顕著に認められた。ウルムチ市の市場の写真を選択した旅行者は、歴史・文化、発見や刺激・非日常体験、現地の人々との触れ合いを海外旅行に求めていることから、歴史・文化を志向する旅行者を受け入れる上で人との交流を生み出せる市場の活用は重要と考えられた。ウルムチ市は新疆観光の入口であるが、単なる通過点としてではなく、歴史・文化をはじめアジアを志向する日本人旅行者の期待に応える観光拠点とすることが重要と考えられた。

今回の調査では日本人旅行者に写真の地名、国名を伏せて実施したため、以上の結果から直ちに新疆観光への応用・実践を議論することには無理があるが、歴史・文化を活用した観光、アジア志向を意識した観光において人との交流が重要な要素となり得ることは、今後の新疆観光の振興を考える上で一つのヒントになると考えられる。

3. 観光体験の多様性の観点からみた四つの観光地の位置づけ

今回の調査で提示した4枚の写真では、森林を含む原生的な自然景観の天池が最も行きたい場所として選択された。また、文化観光地トルファンでは、旅行者が自然志向だけでなく文化・歴史志向を持つことを確認できた。天池とトルファン、二つの観光地は自然景観と歴史・文化の二つの志向に対応し、日本人旅行者を受け入れていく上で両極をなす観光地といえる。さらに、新疆観光を検討する上で、人との触れ合いを生起させる可能性のある市場は、日本人のアジア志向に応える場として機能することが明らかとなった。その一方で、豊かな森林景観を含みながら里山的な景観のアルタイは、約1割の選択率で低かったが、日本人旅行者には身近な景観との印象を与えた可能性があ

る。有意差は認められなかったものの、アジアを指向する旅行者では心の安らぎ・癒やしへの期待も高いことから、海外の緊張の中で弛緩を提供できる観光地として、アルタイも期待できる観光地の一つと考えられる。

V. おわりに

現在、新疆観光は民族問題や日本との外交問題が影響し、日本人旅行者は減少しているが、将来、これらの問題が改善されても直ちに日本人旅行者が増加に転じるとは考えにくく、今から新疆の観光振興策を検討しておく必要がある。本研究は、日本人旅行者の誘致を念頭に、将来の新疆観光の振興に向けた方向性の一端を示したものである。なお、今回の調査で海外旅行のイメージ・価値観を尋ねた記述回答の中には、海外での食品衛生の問題、地域の安全性、言葉の不安、移動時間や距離の問題等の指摘も散見された。今後の新疆観光では、こうした具体的な課題にも応え、より安全で利用しやすいツアーの提供が望まれる。

引用文献

- 安 哉宣 (2012) 日韓大学生の海外旅行意識に関する比較研究. 観光研究 24(1): 69-79
- 馬依拉阿夏木江・比屋根哲・山本清龍 (2014) 日本人学生の海外旅行に対する価値観把握の試み. 農村計画学会誌 33: 317-322
- 中村 哲・高井典子・西村幸子 (2009) 海外旅行の阻害要因に対する大学生の意識—若者の海外旅行離れ「論」への試み. 経済文化研究所紀要 14: 239-294
- 鈴木 晶 (2012) 中国貴州省少数民族地域におけるインバウンド観光の考察—黔东南苗族侗族自治州を中心に—. 別府大学短期大学部紀要 31: 67-78
- 田中良典・井出 明 (2011) テキストマイニングによる若者の観光需要の推定—大学生のライフスタイルに着目して—. 情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ研究会報告 90(10): 5-14
- 新疆ウイグル自治区統計局 http://www.xjtj.gov.cn/sjcx/tjnj_3415/ (参照 2015-9-20)
- 日本旅行業協会「海外旅行に関する調査」調査報告書 http://www.jata-net.or.jp/vwc/pdf/0809_tm_data.pdf (参照 2015-9-20)